

米疾病予防管理センター前所長：次の流行熱に備えるべき 5つのステップ

Julie Gerberding が、コロナウィルス爆発の中で、政府に決然たる行動を要求

【訳者 Greatchain】NeonNettle のこの評者 Sarah George は、CDC の元所長（女性）の言葉がどういう意味だとも言っていない。自分で読んで理解せよと言っているようである。訳者もなるべく正確に翻訳するようにしよう。何か隠し事のある人々の文章の特徴で、だんだん空恐ろしくなってくるのが、わかってもらえると思う。こうした人々は我々と違い、悪を自然なことと思っている。彼らは支配者であって、今後、我々をどう「始末」するかを決定する人々である。どういうことが起こるかが、ほぼ推測できるであろう。

Sarah George, @NeonNettle

March 5, 2020



Gerberding は、MERS、ジカ熱、デング熱、エボラ熱、H1N1 の流行のときには、政府は、あるワクチンのために必要な資金を潤沢にくれたと言った

「コロナウィルスの蔓延する中、連邦政府は今後、あるワクチンを緊急に補給し、将来のパンデミックに備えるであろう。それは、前に大流行が起こったとき、そこをうまく切り抜けて、その努力をしなくなったために起こったことだ」と、前 CDC 所長のジュリー・ガバーディングは語った。

「動物の感染が人間にまで及び、それ以上になろうとしています。こういう例を過去に扱ったことがないのです」と、水曜日、ガバーディングは祖国安全保障委員会で証言した。

「こういうことは一度きりで終わることはありません。これは我々の新しい現実になり、我々が公衆衛生の前線に取り組んでいる投資を、増強する必要があります。」

ガバーディングは、MERS、ジカ熱、デング熱、エボラ熱、H1N1 の大流行の時には、政府はあるワクチンを供給するために、その資源を豊富に使った、とガバーディングは説明した。



議会はそのとき、素早く緊急事態の財政措置を取ったのだが、この大流行が沈静化したと思われたので、その後、急速に中止になったのだ。

「政策立案者たちは、これらの脅威が、社会、経済、国家の政治的安全保障を、覆しかねないと認めています」と、所長は語った。

「不幸なことに、こういったことが認められるのは、健康の危機が起こってからです。そうってから、政策立案者はあわてて反応し、資金を割り当てようとします。しかし、よくあることですが、危機が下火になって一般の関心がおさまると、緊急性が自己満足に後退してしまうのです。投資は枯渇し、注意は殺がれ、安全保障のニセの感覚が支配するのです。そのようになって結論できるようになったことは、アメリカ政府は、危機と満足のサイクルを断ち切る必要があるということ、連続的な予防と保護と復元力を保証できるような原則に、切り替える必要があるということです。」

この前 CDC 所長は、防衛の脅威にあたる職員を増やし、より多くの国家を取り込んで、健康システムを円滑に動かすべきだと主張した。

政府が必要とするなら、そして次のパンデミックに反応して盛り上げようとするなら、この CDC ヘッドがワシントン・エグザミネーに報告した、5 項目の必要事項がある：——
(これは省略)

(訳者)

では、彼女の言う、何より大切らしい「ワクチン」とは何か？ もちろん何かはわからない。しかし、それが病気と闘うためではなく、病気を発した厄介者たちと闘うためであることは推測できる。こんなことは、言語道断に思えるが、それはこの歪んだ地球上では、ある程度当たり前のことになっていることを、私は自分の入院体験によって発見した。たとえば、これを参照願いたい：「せん妄の誤った管理とは、老人人口の誤った管理のことだった !!」 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/200121-4.pdf>

これが「人口削減」Depopulation という言葉によって、当たり前のようになっていくのは、先日述べた通りである。頭の上を「象が飛んでも」(Dane Wigington) 我々日本人は何も見えなかったことになっている。なぜコロナウィルスだけを騒ぐのか？ ただ、ウィギントンのサイトの Visitors の累計は、現時点で 34,814,894 となっていて、1 億の 3 分の 1 を超えている。この関心の違いに日本人は気づくべきである。

CDC という、アメリカのおそらく最も強力に働く役所の一つに、疑いがかかっているという話は、かなり前から聞いている。ネット上の関連する 1 頁だけでも、これだけのタイトルがある。CDC は、これはすべてフェイク・ニュースだと言うだろうが、圧倒的に信じてよいだろう：——

Can we Trust the CDC? British Medical Journal Reveals CDC Lies about Ties to Big Pharma

「CDC は信じられるか？ 英医学誌が、CDC がビッグファーマとの絆について、ウソをついていたことを暴露」

「CDC がワクチン購入のために、納税者の資金 40 億ドルを遣う」

「CDC のワクチン自閉症サギ」

「CDC が、産業のギフトと資金による 100 万ドルを受領」

「前 CDC 所長 Julie Gerberding が、Merck のワクチン支所のヘッドになる」

私たちのブログだけでも、これよりもっと多い関連記事がある：——

「CDC 医者：破局的インフル予防接種が、致命的なインフル爆発を起こしている」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180122.pdf>

「医者がインフル注射に警告：それは癌を蔓延させるように計画されている」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180425.pdf>

「インフル流行、現在週に 4,000 名が死に、ウィルスは制御不能に」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180215.pdf>

アメリカのインフルエンザ予防接種が、いかに不信と悪評を得ているかがわかるだろう。我々の印象として強烈なのは、いわゆる「子宮頸がんワクチン」をめぐる問題で、これをいまだに「お勧めする」人々がいることである。これは誰のお勧めなのか？

——以上